

令和7年度第2回田尻町総合教育会議 会議録

| | | |
|---------|---|-----|
| 開催日時： | 令和8年2月5日（木） 午前11時00分から午後0時15分 | |
| 開催場所： | 田尻町教育センター2階 一般教室 | |
| 出席者： | 山本一男町長、高村浩三教育長、堀江正也教育長職務代理者、濱田智美教育委員、濱田吉美教育委員、吉川有利子教育委員、 | 計6名 |
| 欠席委員： | なし | 計0名 |
| 事務局出席者： | 米良総務部長、西阪企画人権課長、上田企画人権課主幹 澤谷教育部長、伊藤教育管理課長、 水野一貫教育推進参事、中西一貫教育推進参事、高木一貫教育推進課長 | 計8名 |
| 意見聴取者： | なし | 計0名 |
| 傍聴者： | なし | 計0名 |

事務局 (司会) みなさん、おはようございます。
ただいまから令和7年度第2回 田尻町総合教育会議を開催します。私は本日進行をさせていただきます企画人権課の西阪といいます。よろしくお願ひします。
まず初めに今回の主催者であります山本町長から挨拶をお願いします。

山本町長 【町長あいさつ】

事務局 (司会) それでは皆さん顔も十分にご存知だと思いますけれども、改めまして自己紹介をお願いします。

【自己紹介】

引き続きまして、事務局の紹介させていただきたいと思います。

【事務局紹介】

それでは早速ですけども会議に入りたいと思います。ここからは町長に進行をお願いします。

山本町長 はい、それではお手元に配布のですね、次第にのっとなってですね、進めさせていただきますしたいと思います。
それでは一貫教育の施設整備について議論したいと思います。それでは説明お願いできますか。

高村教育長 それでは私からですね一貫教育施設について、資料に沿ってですね、ご説明をさせていただきます。

【一貫教育施設整備について説明】

山本町長 いろんな角度から見てですね、今回一貫教育施設整備をですね、一体的に指示した方がいいと。こどものためにもなるし、運営上そういう意見ということになりました。
ちょっとご意見、ご質問いただいたらと思います。いかがなものでしょう。

堀江委員 これ一体化でもうきてるから、15歳も1校にして。こども園大規模改修って

山本町長 こども園の使い方に関しましては、約半分ぐらいを学童保育の場所にしようかなと思ってます。

で、学童保育をすると、そこにまた運動場がありますので、今の学童保育よりもっともいい環境になるかなと思ってます。で、あと半分ぐらいはですね、令和17年って書いてますから10年後なんで、その時の社会にニーズを考えて、民間活用も含めたちょっと公共サービスの施設を運営できたらどうかなという風に考えてます。

福祉デイサービスとかそういう風な施設であるとか、居場所の場所であるとか地域コミュニティにちょっと貢献するような、そういう、ちょっとそれをちょっと、民間主導になるのか、公共主導になるか、ちょっとこれから検討した上でですね、有効活用したいなと思ってます、はい。

そういう答えでいいかな。補足あったらまた事務局さん言ってください、どうですか。

堀江委員 結局このままやったらプールはもう田尻町からなくなっちゃうんですか。

山本町長 それはまた別途検討をしたいと思えますけれども、今、昨今、建設資材の高騰であるとかありますので、令和8年で1回町全体の公共施設の総合管理計画というのをちょっと見直し作業します。

そういう作業のなかで、何はさておきまずはこの学校、大事ですし、防災文化センター必要ですし、駅前の拡幅工事もせなあかんし、大プロジェクトがちょっといっぱいありますので、そういう兼ね合いと、あと生涯学習機能をどうするかと、生涯大綱というか、そういうのをちょっと検討した上でやっていきたいなと、検討していきたいなと思っております。

学校の授業という面では学校のなかにプールを建てるということは、ちょっといらないやろっという結論にはなってますし。生涯学習施設として使うのであれば学校のなかに建てれないので。学校のためだけにプール作ると、ちょっと非効率な運用になりますので。あの授業、プール作らなくても体育の授業としては、バスをチャーターして近隣のスイミングスクールに行けば、先生の負担もないしということで考えてます、はい。

今作らないという答えではなくて、はい。また令和8年度、来年度でもそういう検討をちょっとしようかなと思ってます、はい。

濱田(智)委員 田尻町のプールなんですけど、私たちのね時代はもう毎日ほどプールの授業ですごい鍛えられて。田尻町、プールがなくなるのはちょっと…

山本町長 そういうご意見ね、多分出てるでしょうね。僕もそうですからね。夏休みっていったら、半分以上っていうか、毎日、プールでね鍛えられましたから、ほんま鍛えられましたからね。その良さっていうのは重々分かってますので、それと費用対効果とちょっと比較していかなあかんかなと思ってます、はい。今の時代、温水プールでないとかね、色々ありますので。そうなってくるとやっぱり小さい町にはかなりの設備投資になりますので。

濱田(智)委員 生涯学習の面から考えても、子供たちだけではなく、一般の地域の方も…

山本町長 健康作りのためになってことですよ。検討させていただきます。

何でもいいんで、ここもちょっと詳しく説明してほしいよって言うようなご意見でも結構です、何かありますか。

濱田（智）委員 施設とかハードではこの留意点についてしっかり考えていただいたらいいと思うんです。で、そのソフト面でその一貫した教育のカリキュラム、これがとっても大事だと思うんですけど、どんな風に。

山本町長 はい、今もうすでに取り組んでいる部分とかそういうのちょっと事務局さんの説明お願いできますか。

事務局（水野一貫教育推進参事） 一括で教育カリキュラムというと、すごく大きな形でも見えるんですけども、元々例えば小学校と中学校っていうのは学習指導要領があって、そのなかで学習する範囲ががちりちり決められてるというのが現状です。

ただ今後ですね、この学習指導要領の次回の改定がまた迫っておりまして、その中では空間っていうのはある程度こう柔軟に学校で組み替えられるといたしますか、ちょっと具体的に言いますと、今、例えば算数の時間、小学校では45分になってます。1時間、45分っていうのをちょっと短くして、そこで浮いた時間を他の時間と合体させて、他の時間で例えば60分の授業を組むとか、そこで例えば田尻町ならではの授業をやるとか、そういうものも自由に動けるようになっていきます。

これまではある程度もうガチガチに決まってるんで、なかなかその一貫した田尻町ならではのカリキュラムを作りましようってしても、なかなか難しいところもあったんですけども、制度的にそういうのも柔軟に変えられるようになっていくっていうところを見据えて、今後そういうところも考えながら、じゃどういうカリキュラムがいいのか、今、我々の方では目指すこどもの姿っていうのは、もう田尻町として15歳の時にはこういう姿になってほしいねっていうのは園小中で共有してますので、その中で各教科にじゃあ落とし込んで、こんな姿にしていこうとかいうのを、こう年間計画を作っていくというような形で今スタートしておりますので、今後そのあたりをより具体的に、もうまさに園小中が1校になるという方針が決まったので、それを見据えて検討していきたいなというところで思っております。

1個分かりやすいのが、こう約全国的にもされてるのが、そういう田尻学じゃないですけども、それぞれの地域のことをしっかり学んでいこうっていうような部分もあれば、あとは外国語ですね、英語に力入れてるところもあります。その辺りは田尻町の場合もすごくやりやすいなど。

例えば関西国際センターもありますし、関空もありますし。でもそういうグローバルな視点っていうのは今後大事になってきてますし、そのグローバル、うちの場合はグローバルっていう言葉も使ってますけども、基本構想にも盛り込んでますんで、それ英語の授業をじゃあ0歳から15歳まででどういう英語力をつけていこうかっていうカリキュラムの検討もできるかなというふうに様々な視点で今進めているところですので、またある程度具体化してきた時点でまたご報告もさせていただきたいなと思っております。よろしくお願ひします、はい。

山本町長 よろしいですか、はい。あのちょっと関西国際センターの話が出たんで、私のほうからちょっとPRさせていただきます。

年明けて1月の6日やったかな、関西国際センターと田尻町で包括連携協定、結ばせていただきました。特に国際交流ですね、それについて「町さんの方と協定を結んでしっかりと、こどもたちに向けて最高のプログラムを関西国際センターの企画であったり、こっちからの企画であったりという形でしていこうね」という協定を結ぶことができました。

今まではね、岸和田から岬町までこれが地元なんで、なんて言うんですかね、地元って言ったらかわいけど、「まあまあ順番ですわ」みたいなんで、「もっと来て来て」って言ってもなかなか来てへんかったんやけど、ちょっと長年のラブコールがちょっと実りまして、「じゃあやりましよう」ということで、私と向こうの所長とね、包括協定結びました。

来月号ぐらい出るかな、来月号の広報で、報告させていただくんですけども、あのセンターを使ってこどもたちをセンターに来てもうて。でホテルになってますから、あの

中は、宿舎になってますから、泊まることできんかな、泊まるのはちょっとしんどいか。

事務局 泊まるのはあれですけど、合宿的な研修は
(司 会)

山本町長 合宿的な研修をやってもらったりとかいうことであるとか、防災訓練の関係でちょっと連携しようであるとか、ここの部屋使ってどんどん研修室で、ここで勉強してくださいであるとかいうラブコールをしてますので、ちょっと来年、早速、生涯学習課がやってる学び塾あそこにですね、あその研修生がお話ししにきてくれると。いろんな国から来てますから、その国のお話をしていただくと。早速そのまなび塾で企画が1つ動き出してます。もうすぐね2月かな、8年度はしっかりと年間通じてこういうプログラムをやっていこうってことになってます。

また注目しといてください。ちょっと特色のある学校作りにね、教育長ね、繋がりそんな可能性が十分ありますので、はい、注目してください。

濱田(吉)委員 一貫教育の施設は進めていくということはこれまでも色々、教育委員会議でも聞かせていただいたし、まあ答申も見せてもらった。設計図も色々、まあ二転三転はしてますけども見せてもらったんで、「あ、これでやっていくんや」っていう意識で、我々も私は聞いてたので、これで決定してやっていくと。

やっぱり気になるのは、やっぱり進めていくにあたって、やっぱり大事にしていかんとあかん。この一貫せっかく田尻でやっていくんで、本当にこういうことをやっぱりきちんとやっていかんと、結局作ったわ、結局また一緒やったわってなってしまう。中身が一緒やったなとね、お金をかけてやっていく、こんな計画たてて時間もかけて費用かけてやっていく意味がないので、やっぱり大事にしていかんとあかん点をやっぱりきちんと整理していかんとあかんやろなというふうには思います。

やっぱり一貫の大事なちゅうことはやっぱり各園小中の段差っていうかな、段差をなくすことが、やっぱり1番の狙いなんじゃないかなあと。で、やっぱり自身が経験で思ってたのは、やっぱり園と幼稚園、保育所と小学校との意識の違いっていうのが、僕自分が小学校だったんで、そう思うんかもしれませんが、すごくやっぱり差がある。

なんか教育ってそれぞれの文化、園小中には文化があるんだけど、園と小とのなんかその意識の違いっていうのがすごく大きいなっていうのが。前にも話しさせてもらったことあると思うんですけど、小学校の先生が幼稚園のことよく知らないみたいな、それがすごい感じるし、不登校の問題でも6年生でなったら中一になったら倍になってるという現実ありますよね。だから、6年生の不登校児童も数が、中1になると全国で全体で倍になってる。

だからそれが、その小と中のそういう段差も深刻だし、色々まあ、年長から1年生に上がる時の幼稚園では年長さんはもうお兄さんやから、もうしっかりしてるからって言われたものが1年生になったら、「はい、かわいい1年生が来ましたよ」ってもう赤ちゃん扱いになる。

「え？俺らでももっとできんのに」って思ったのが、小学校入ったら「なんやこれは」ってゆう。子どもらは多分もっとそれを敏感に感じてるだろうし、それが果たしてそのままの流れで小学校で行ってしまうともう「ああ、これでいいんか」みたいになって、せっかくの力がひよっとしたらこどもが発揮できない。それも小学校の責任なのかもしれないし。特に思うのは運動会の演技とかね、ダンスとか、まあ言うたら年長さんやったらもっとすごいことやってるわけですよ。やってるとこはね。それが1年生になったら、「可愛い。可愛いね。」って保護者の目に果たしてどうなんやろう。

見てる幼稚園の先生らにとったら、「ええっ」て多分思われてるだろうというのはもう昔から思ってたけども。「今ところもっとできんのに。俺らもっとできるで」みたいなこと、「もっとすごいことやってきたのに」っていう。そういうのはあるだろうし、そういう本当の何ていうかな、段差が全然埋まってはないような、それを埋まるための一環教育でなければ、やっぱりならないなど。

やっぱそのために1番大事なのは、先生らの意識改革やと思うんですよね私は。先

生らは、まあ、なったところで、今、水野先生から学習指導要領、多分それに則って、カリキュラムは作っていくんだろうけども、本当に一貫がもう全く 0 からだったら、莫大な労力がかかるからそんなは多分できないだろうし。でもまあ小は小、俺らまあやっていたら、勤務の通りやったらいいんや、例えば施設は一緒やけど自分のこどもを見てたらええんやっていう感覚でいくと多分ね、別に何の意味もなかったように過ごしてしまう。

それが学力の問題にも繋がっていくだろうし、せっかく敷地も一緒になって、職員室を 1 つにすんのか 2 つにすんのかは知りません、分からないけども、なんていうかな、例えば工業の学習と社会の問題とかでも 5 年生で自動車工業を教える、中学校でも多分教えると思うんだけどけども、工業。それ小学校でどこまで教えて、で中学校ではまた教える。同じことを教えてたら意味がない。これはこれ小学校で聞いたでってなってしまう。じゃあ、小学校はここまでやって。あとは中学校でそういう交流が職員の交流ができていかんとあかんと思うんですね。

だからそれがしやすいための施設の一体であって、だからそういう行事の交流は今までなんぼでもやってきたけども、学力の交流っていうのはほとんどやってきてないはずなんですよ。だからそんなんをできやすくするために施設を一体化して、先生らも交流して、それがいちお教職員の連携はかって、交流はかってなっていく。これがしやすいようにする。

そうでないとやっぱりやる意味がないっていうかな、それでこそ初めて一体化、施設も一体化、園舎は園が校舎がバラバラでの一体はどこでも色々あるけども、せっかく施設の一体化するんであれば、そういう交流をきちんとして、それがこどもに反映されて、で今までできていなかった、お互いの認識ってかかっていうかな、先生らの部分も含めて、それがこどもにかえていって、初めて町長さんがおっしゃってたナンバーワン、そういう目標に向かっていけるような体制づくりができるかなっていう風には思うんです。だから幼稚園とかやったら、今やったら遊びから、それが学びに変わると、その辺の変化がね、すごい難しいわけです。そんなんも含めて全部一緒にするってあるから、建物内で中でこどもたちと一緒にしていくための良い点をどンドンどンドン推し進めて、やっていくためのものでなければならぬかなというふうには思います。

山本町長

はい、ありがとうございます。今のご意見ごっついよう分かりましたわ。

私も小学校から中学校来た時に、隣ののに、中学校、えらい緊張した覚えありますわ。ごっつい、なんかしらんけど、先生が全部変わって自分も頑張らなあかんと思ったんやろね、中学生やから。なんかね、えらい 1 学期の半分以上緊張してた覚えがあります。私の妹もそんなこというてましたわ。

ま、そんなところで登校、不登校がね、増えるっていうのがね。

濱田(吉)委員

まあ 6 年の不登校のこどもらで約 7 割が、中学へ入っても継続しているっていうデータが多分あるんちゃうかな。で、やっぱり学校生活に全然やる気なくなったりとか、そういう心の面で生活リズムが不調になっていたりとか、そんなんが多分上位になると思うんで。そういうのも含むと、やっぱり今も本町だけに限ったことじゃなくて、やっぱり不登校が多いっていうのは小中の段差のまあゆったら問題なんじゃないかなというふうに思いますんで、それを…

山本町長

1 つ屋根の下にね、勉強するというか、生活も一緒にね一年間ほとんどするわけですから、それを小学校の先生もエンゼルのこどもを見るわけやし、中学校もね日頃から見るので、僕ちょっと素人なんですけど引継ぎを、文字とか口で言うのも引継ぎですけども、実際見てますからね、そういう引継ぎはスムーズにいくかなと。百聞は一見に如かずやから、もう手に取るようにわかってもらえるスタッフがね先生たちの間で共有できるんちゃうかなって思って。

さっきの段差の話もね、1 年生になったら逆に甘やかすというか、もてあます力を。それもごっつい先生よう分かるご指摘で、「ああ、なるほどな」と今思ってたんですけども、そういうのも一つ屋根のしたで生活しながら勉強することで、この教師、先生と

の間で、まあ言うのと円滑に段差を通りこしていくとか、スムーズに段差を解消して
いただけたらなあと思いますけども、そのためのね一貫教育施設で

濱田（吉）委員

そういうのをくっつけて考えたうえでのフロアの配置をよく考えていかんとあかん
やろし、結構難しいですよ、フロアの配置っていったら。

濱田委員さんもおっしゃったようにハード面、よく色々変わっていくんでわからない
んだけど、避難のことも考えて動線とかも考えたらその階段の幅とかね、皆こども
らいっぱい一か所に集まるんだから避難する、移動する、また1か所に集まると考えた
ら、今の小中の階段の幅でいいのかとかね、もっと広くせんとあかんとか、階段の幅も
高さもあるやろし、今小、中も全部違うやろうから、そんなんも含めたりとか。

体育館も小中全員が一緒に集まれるだけの広さとれるのかね、そんなんもいろんな細
かいこと考えてたら大変…まあそのへんは分からないけども、そういうのも含めたうえ
でのやっぱり、やっていくって凄く大変やろなあと思うけども、せっかくするんであれ
ば、そんなんも全部ね、（いいかたちでね）いろんな不等号の意見たたかわせながら、
いいものをできたらいいなあとは思いますが。

山本町長

ありがとうございます。

まあ今ね、現場の先生らも入って IKKAN っていうね会議やっていたらいいんで、
その IKKAN でしっかりとカリキュラム作って、それがちゃんとハードの整備も基本
コンセプトや細かいところにまでね、行き届かせて反映できたらいいなと、今ちょっ
と思いましたが、どうですか事務局さん、何か。

事務局
（中西一貫教
育推進参事）

園と小学校の段差っていうか遊びと教科学習の違いっていうのは田尻町だけではな
くて、全国でやっぱり問題っていうか、になっていて、今、見直していこうという動き
が出てます。年長と1年生のこの2年間を架け橋期と呼びまして、この架け橋期に対す
るプログラムっていうのを色々みんな考えて行こうっていうのが全国的にスタートして
います。

田尻町は1園と1小なので、その点、接続というのは確かにしやすく、行事等の接
続も沢山あるんですけども、さっき話題にもなられた、それぞれがどんなことをやって
いるかというのをよく知らない。そして自分たちのやってることはこれでいいだけ
ども、そこはもう接続するときに何か引継ぎ等で接続するで、今の現状としてはそんな
状態やったなあと思います。田尻町はよそに比べるとかなり交流が深いとは思って
ますが、ただ1つ教育内容についてどこまでよく理解してるかってところには課題がまだ
あるなあと思います。

そこで昨年度から幼少接続会議ってのをはじめまして、担当の先生を配置して、それ
ぞれの保育の内容だったり、大事にしていることを見合ったり、気づき合う会議をスタ
ートしています。今年度に関しては生活化と遊び、好きな遊びの場面をそれぞれ見合っ
てそれぞれの声のかけ方ひとつでも、とか大事にしていることどこかなっていうのを確認
し合いました。

学校の先生では、ここが一緒でしたねとか、ここが違いましたねって気づきがたくさ
んあって、すごく有意義な会議だったと思っています。この架け橋プログラムっていう
のが、ゆくゆくスタートカリキュラムとアプローチカリキュラム、アプローチは園から
小へ、スタートは小学校入学後のカリキュラムという2年間のカリキュラムを策定して
いくという目標があります。田尻町もゆくゆくそれ、来年度からそれに着手していき
たいなあ私のほうでは考えております。

で、このカリキュラムは一体化とはまた別に、国は一体化のことはやっておりませ
んで、一体化するためにはではなくて園と小を接続していくっていう目的があるので、一
体化を待たずしてもう進めていきたいと思ってます。で、これがまずベースとして進め
ていきまして、で、一体化をまた子供たちや私たちの関わり方ってのは変わってくると
思いますので、ベースにあるこの架け橋プログラムを、ブラッシュアップしていくとい
うようなイメージでいますので、開校までにそのベースを全部見直して検証して作っ
ていけたらと思っています。で、架け橋期だけじゃなくて、これは担当の先生方だけじ

やなくて、園、小両方ともに広がっていきける、中学の先生にも理解していただいて、0 から 15 の繋がりをここだけではないんですけど、これを 1 つにして、繋がり、子どもの育ちを繋げていけたらなと考えているところで、今は現状はこんな感じです。はい。

山本町長 はい、ありがとうございます。はい。

濱田(吉)委員 その内容だけじゃなくて、先生のやってる、例えば幼稚園、今は小学校はユニバーサルデザインとかってあんまり掲示物はらないじゃないですか。昔はまああって色々ね。でも幼稚園の先生ってやっぱり園はすごい掲示してる。でもあれを先生らが担任 2 人とかでするので、ごっつい大変なんですよね。でもすごい時間かかる。でもそれをうまいこと短時間でするわざを知ってるんですよね、幼稚園の先生ていうのは。ほんまにやっててすごいなって。でもそれをうまいことやっていく。その技を知ってる。でも小中の先生絶対知らないんですよ、その技を。そんなんをね、色々ね、でも小学校の教師はもう必死になって、遅くまでかかって、色紙とかパソコン使ってやってる。でも園の先生はきっとそんなことしてないんですよ。もっとうまいことやりくりしてるんですよ。でもそんな技も技術も知らない。いや、そんなんも含めてね、せっかく一緒に、でもそんなん普通の交流で話ならないじゃないですか。でも見たらでもすごい、うわーっと思っても。だからそこも含めて隠れてるものとかね、それがいままで知らなかったこととかを知る場面にもなるだろうし、で小から中にしてても例えば学力の問題で、じゃあ小学校から 6 年から中 1 にあたるまで、じゃあこの子はどんだけの漢字が小学校での千何文字をかけるか、個人的なデータなんか誰も出してないはずですよ。でも、ほんまはそれが必要なはずなんです。各漢字とか計算問題とか。でもそんなことをしない。それは時間がかかるからであって。でも、本来はそういうまあ言うたら伝達、その引き継ぎが必要なはずですよ。でもそこまではできてない。でも本当に大事な引き継ぎは何なのか。まあそれは生活面とか色々家庭面とかもあるかもしれないけども、やっぱり学力とこの問題もある以上ね、そういうことに何か数値化したりとか、うまいこと絞ってやっていくとか、そういう方法もあるはずなんです。やろうし、そういうのも。やって行けたらなって、思います。

山本町長 今先生の話聞いてたらもうかなりあのなんていうのかな、夢が広がりますわ。ああ、そういうことか、そういうことで現場の話でね、今言っていたいただいたように。

濱田(吉)委員 昔から幼小中一貫でどうのこうのずっと、私が田尻にきたときからずっと言うてて、結局まあね、同じようなこういう果たしてでそれでせっかくここまで、ここまで来た中であつたら、やっぱり今までの分をもっと打ち破った上での交流にしていかなと、意味がないという風には思います。

山本町長 ありがとうございます。現場の連携のここを連携したらええっていうね、いいお話今、逆に私今ごっついなんか、一貫教育の意義というか良さというか、また確信はしましたね、ありがとうございます。あの職員室はもう 1 個になるのかな、どんなんですか、イメージとしたら。

事務局 まだ決まってはないですけど、その方向でというか、やはりその日常的に先生らがわざわざ会議せんでも、ちょっと雑談で喋れる子供の導引ができるってかかっていう、そういう空間は必要やと思ってるので、だったら一緒の方がいいのかなっていう方向では感じてます。

山本町長 そんなもう小学校の先生が、さっき言ったユニバーサルデザインの作ってよーとか（これどんな風にやってんのか）垣根を越えて、別にいちいち、教頭先生やら校長やらに許可もらわいでも、これ手伝ってって言って、その良さがこう自然に生まれるみたい

な。

事務局
(水野一貫教育推進参事)

まさにそういう日常的に、自然にできるという。そういう作りに

山本町長

そういう作りにハード面もソフト面も組織の仕組みもやっているということですね。とてもいい例を挙げていただいてよく分かりました、はい。もっとご指摘、質問ないでしょうか？まだちょっと時間ありますので、はい。

どうでしょうか？吉川委員さん、なんか質問ありませんか？ここもっと説明せいか。ここはどういうことやとか、なんでも言ってください。

吉川委員

私、よく保護者の方とお話しする機会はあるんですけど、思いのほか、皆さんその全然理解されないというか、浸透してなくて。その辺はなんていうんですかね、私はこうやって説明をいつもうけてるので分かるんですけど、保護者の方はほとんど何も、全く何も見えてない状態で。

山本町長

一貫教育というこについて

吉川委員

はい。ただ、なんでこども園を一緒にするのか、そこだけは全然分からないという方がほとんどなんです。

山本町長

なるほど、分かりました、はい。

吉川委員

で、今、中学校の横にあって、園庭が近い。で中学校の子たちは、なんていうんですかね、その園庭の声、それもあの幼稚園の子供さんが遊ぶのは当たり前で、お声が出るのは当たり前なことなんですけど、それが一緒になって授業の聞いている時に、なんて言うんですかね、それが気になってってということが、やっぱり皆さん気になってるなあって、はい、そんなことでした。

山本町長

はい、この点、ご理解を得るっていうか、保護者のね、PTAの方やら保護者の方やら町民さんも含めて、どういうアプローチでやっていくか、ちょっと事務局さん予定があったらお伝えください。

事務局
(高木一貫教育推進課長)

そうですね、前にもちょっとお伝えしたかもしれないんですけど、来週、教育フォーラムという形で、保護者の方や住民さんむけにどういう教育施設を整備していきますよ、なんで一貫校なんや、なんで田尻が園小中を一緒にする一貫校を整備していくんだっていうところから、分かりやすくご説明をさせていただこうかなと思ってます。

ただ、なかなかちょっとやっぱり日程が合わないのか、今、もう参加者がなかなか少ない状況なので今後もですね、リーフレットを作成したりとか、広報には毎月載せておりますんで、そちらの方で随時、なんで一貫校、一貫を支持するんやってこととか、あと皆さんが疑問に思われることっていうのがあるかと思うので、そういう Q & A みたいなものもちょっと広報とかでお示し、リーフレットか何かちょっとまだ媒体は分かりませんが、お伝えできたらなという風に思っていますし、今年だけじゃなくて、来年以降もずっとですね、その教育フォーラムであったりとか、また PTA の研修会なんかでもですね、田尻一貫教育の方向性は随時お知らせしていきたいな風に思っております。

山本町長　まあイベント的にやるのもええけど、ちょっとこう足を運んで出向いて説明するところもちょっとね、検討してほしいなって今思いますね。あの、やっぱり熱心な方はね、来てくれるけど、やっぱりちょっとね時間ない人であるとか、皆さん子育てには熱心やと思うけど、やっぱり時間がなかったりとか、広報で書いてもなかなか読めないとかあるから、やっぱり出向いてね、ちょっとやるっていう方向性の要素の説明もですね。ちょっと取り入れてやっていきましょうよ。また吉川委員またいろんな場面でどうやって町民さんに伝えたからいいかって、またご意見ください。はい、なるべくやっていきますわ、はい。

他にはいかがなものでしょうか。堀江委員もうないですか、さきほどプールのお話をしていたき。

堀江委員　やっぱり田尻町として子どもって宝じゃないですか。宝を町をあげて見ていくと。で、先生方も中学校の先生やけども0歳1歳とかね、そういうもう垣根を超えて、宝を見ていくっていうスタンスでやってもらったらいいものできると。

子供もね、僕も前々から思ってたのがまあね。ちょっとエンゼルさんの運動場がどうなるかちょっと分からないんですけども、お昼休みとかね、中学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんが一緒に砂遊びしてたら、すごくいいかなと。そういうのができたら理想的かなと思ってますね。だから今もうね、公園とか行っても僕らやったら年上のお兄ちゃんらおったらちょっと横で遊んだりとか、よかったら中で混ぜてもう一緒に野球やったりしてましたけども、まあそういうのがあんまり今ねないもんですから、学校でそういうなんか年を超えて垣根を越えてね、まあそういう、できたら年長のお兄ちゃん、お姉ちゃんは、まあ番長じゃないけど、そういうね、下の子を見て行って、下の子はお兄ちゃんお姉ちゃん言うてやっていったら、まあ、あのあんまりね、子供らとかでも、まあまあめいめい行ってるけども一緒に行く団体らも増えたりするかも分かりませんし、はい。やっぱりみんな親同士もまたね、保護者同士の交流とかも、あるかなと思いますんで。

山本町長　はい、ありがとうございます。

異年齢交流というか異年齢と一緒に学習するというのがやっぱり効果あるという風に私も思ってますし、その辺やっぱり狙いとしてはありますよね、事務局からね。やっぱりその小学校、中学校、エンゼル、今回一貫教育、町の中心にありますので、子どもを宝として見るけど、そこから子供から得るパワーをまた町に広げて行って、やっぱり活性化ね、町自体の活性化するといいますかね、そういうのも狙いとしてはありますので、一貫教育が町の活性化に繋がるようにしていきたいなと思ってます、はい。

濱田(吉)委員　また高齢者の方とかも交流で(町長：元気出ますもんね。)そう、またね、今読み聞かせとかもあるみたいですけども、普通の人らでもちょっと来てもうてこの本読んでよとかね、なんかそういう交流とかあったらまた年配のベテランの方もまた活性化して、はい。元気出るか分からへんし、はい。

山本町長　いろんな効果があると思います。はい。

濱田(吉)委員　その学校の留意点の地域との交流空間を設けるって、そういうスペースを設けるんですってね、地域の人が自由に入ってこれて、それがすごくいい支援、田尻町がね、その一町一貫やから、それがやりやすい地域やし、今までもやってきたし。で、やっぱりその園小中というそういう縦のつながりと家庭、学校、地域という横の繋がりがあって、その中心にこの学校があるんやから、一貫、今中心っておっしゃった、学校が中心って

いう考え方でやっていったら、すごく、そういう地域の方々のあれも取り入れながら。だから今現在、やっぱりもう学校というだけの学校がもう果たす役割というのがもう限界にきていると思うんですね。今の段階で子どもにも「生きる力」とか、どうのこうの受けさせるとか、いうには今もう限界ちゃうかな、先生らの働く仕事の量とかも、「僕らにねこれ以上何させるねん、俺らに」て言う風に、きっと思ってるはずやから。それをうまいこと違う方向で、ほんとにその先生方一人ひとりの力も発揮できるような、部分ができるような、そういう一貫校になってもらいたい。今このままだったもう先生なんかもううちだけに限らず、学校の力として、できるものの力っていうのはもう皆、どの学校でももう限界やと思ってます。じゃないかなと。やることやってるはずなですよ、どこも。もうしんどいなかでもやってるから。もうこれ以上、するとほんまに先生か学校が潰れていくという気がせんでもないですが。

山本町長 ああ、そうですか。ありがとうございます。教育長どうですか。

高村教育長 あ、先ほどの教育委員会議でもね。ちょっとそういう風な話題があがってたんでね、はい、もう仰ると通りで、地域の力をいかに学校の方に入れていくかっていうことはもう非常にこれから大事だと思うし、大きななんて言うかな、田尻町にとったら非常に大きな学校づくりに活気づくりになると思います。

山本町長 なるほど、まあそういったなかで一貫教育の施設になってれば、またそれがしやすいようなね、そういう好循環生まれるような運営とハード整備を目指すべきかなと。目指さなあかんと、改めて今日ちょっと思いましたね。

濱田(吉)委員 協議会のその一貫ですよ、今後、協議会とかコミュニティスクールなんかもやっぱり動き出してるから。

教育長 そうですね。運営協議会…

濱田(吉)委員 やっぱり地域との繋がり、先生仰るような、地域はそれで地域の元気になるし、学校は地域の力を借りてっていうことかな。

山本町長 コミュニティスクールというのはもう動き出してるんですかね。

事務局 今年、試行的にスタートしてまして、この4月から本格的に設置するゆうような形になります。で、8年度のほう、予算も要求させていただいてるんですけども、ちょっと様々な新しい取り組みをする予定をしております。

山本町長 なるほど、分かりました

事務局 そちらの内容につきましては、来月の教育委員会会議で報告、討議させていただこうかと思っております。

山本町長 はい、大体時間になりましたけども、まだちょっとこれこれだけは言っときたいとかレジメ見たらその他もあるしね。どうやろ？良かったかな、こういう運びで。教育全般、社会教育も含めまして、広いなかで、もしかありましたら、はい、すんません一貫のほうでバツと深くいいお話いいご意見いただいたので。なんかありました、気がついてることがありましたら何か。ないですか、いいですかね？よろしいですか？いいですか？

(意見なし)

これちょっと説明しとかなあかんやんな。どうもすいません。あの防災文化センター。これ、私の最大の公約でもあるし、ほんとにミッションやと思ってます。今のちょっと進捗状況を報告ね、さしていただかないといけませんね。

私がああの町長選挙で通りまして。で、でも、選挙の結果ですぐ進むもやっぱりなかったですっていうか、反対議員の方々はやっぱり、それはそれ、選挙の結果はそれ。やっぱり 5 対 4 の構図は変わらなかったです。ただ今、一生懸命、防災文化センターのまはらずに防災という意義で勉強会しよ検討会しよということで、今 2 回やりまして、それまでにも、私ともあのすごい対話やってます。

ほんで今やっとなすね、駅上広場に何か公共施設が、田尻町の町の全体見まわしたら公共施設があるねと、津波の浸水区域外に公共施設あるねと、いうところでベクトルは一致してきてます。で、今年度は、どういう機能を持たした施設にするのか。で、ご理解いただけるように生涯学習の機能を、公民館を移設していく方向で、議論をしていただくようにご理解いただくように、これから努めていきます。そういうようなかたちで、今当初予算も組もうとしてます。課題整理、防災文化センター課題整理業務という委託費を出していくなかで、もう一度基本構想、基本計画っていうのはしてるんですけども、しっかりとそのもう 1 回事業費の規模であるとか運営方針であるとか、防災機能はどうしたらいいのか、生涯学習機能はどうしたらいいのかっていう検討を再度、報告もしています。で、その中で議員さんの方に了解を、ご理解をいただいて、令和 9 年度からは、ほんとに着手すね、建設に向けた着手に移れるように令和 8 年度、動いていきたいなと思っております。だいたいそんなとこです。お分かりいただいたでしょうか、はい。

そこからまた生涯学習の振興に向けてがんばっていきなすねと思っております。公民館はすね、あとの有効活用、防災文化センターできた後の有効活用も一応議論を本格的に 8 年度したいなと思ってます。で、どういう利活用があるのか、再度町民さん、議員さんはじめ町民さんとも対話していこうかなと思っております。最終的に、私今個人的な意見なんですけども民間活用っていうのも含めましてね検討できたらいいなと思っております。はい、そんな感じです。よろしくお願ひします。

それでは大体あの今日はとても有意な会議だったんじゃないかなと思っておりますけども、他になにか最後にご意見ありましたらまだ時間いいですか、よろしいですか、はい。

(意見なし)

はい、ちょっと事務局さん、進行をもどします。よろしくお願ひします。

事務局 (司会) はい、本日の皆さんと忌憚のない意見交換をすることができ、本当にありがとうございました。

で、ここですいません。先ほど話しに出ました関西国際センターと協定の件ですけども今月号にのってます。ご覧いただけたらと思います。よろしくお願ひします。会議については以上となります。最後に教育長から閉会の挨拶をお願いします。

高村教育長 【 教育長挨拶 】

事務局 (司会) それではこれで会議を終了します。ありがとうございました。

以 上